

資源添加率向上技術開発研究

(予算区分 県単 研究期間 平成20～22年度)

担当：伊豆分場

【研究の背景とねらい】

- ・沿岸資源を持続的に利用するために、県内各地でマダイ、アワビ等有用種の種苗放流が行われています。これらについては、漁業者に放流効果の認識が定着し、放流経費の一部負担など事業化に向けた取り組みが進みつつあります。
- ・今後、放流事業の定着を進めるためには、放流効果をさらに向上させる技術開発と技術の定着化が必要です。
- ・マダイの放流適地は水深が10m以浅で底質が砂場とされていますが、地先に放流適地が少ないため適切な放流が行われなことがあるとあります。このような場所に放流した稚魚の生残率は非常に低く、資源への添加は期待できません。
- ・適地へ放流することで放流効果を高めることが可能ですが、地先により環境条件が異なるために、放流適地の条件は一定ではありません。
- ・本研究では、放流種苗の資源添加率を向上させるためにマダイ等の放流適地の条件と放流効果を明らかにし放流技術の定着化を図ります。

【期待される効果】

- ・放流適地の条件が解明され漁業者への普及が進むことで、適切な放流事業が行われるようになります。
- ・放流後の減耗が低下することで効果的な資源増殖が図られ、放流効果が向上します。
- ・放流効果を向上させることで、放流事業の定着が促進されます。



マダイ稚魚の港内放流



放流直後のマダイ稚魚

【年次計画】

- ・放流適地の探索と適地条件の解明 (平成20～22年)
- ・適地放流による放流効果の把握 (平成20～22年)
- ・放流技術の定着化 (平成20～22年)

(作成 平成20年4月)